

2023年6月11日（日）／説教者：國分美生

説教：「神の造られたままに生きる、ということ」

聖書：マタイによる福音書6：25～34

イエスは、悩み苦しむとき、目をあげてあなたの身近な自然をごらんください、と語りかけています。野の花や空の鳥に神をあかしさせているのです。

このイエスの言葉を聞いた人々の、不当な扱いを受ける中での貧しい暮らしを、現在私たちは他人事とは思えません。お金がない、という悩みだけではなく、それによって自尊心や希望を失い、信頼関係や思いやりの心が壊されていくのが深刻な問題。空の鳥を見なさい、野の草花がどのように育つのか見てみなさい、という言葉は、まさに私たちの心に響きます。私たちは身の回りに目をやり、自然や生き物…神の被造物が神の造られたままに生き、与えられた生を全うする姿を見ます。それは神に信頼して生きる、ということです。神はご自分が創造された一つ一つの命を生かし、養ってくださるお方であることを再確認します。だから私たちにも決して悪いようにはなさないはずだ、と。その確信は神への信頼です。

「だから『何を食べようか』とか『何を飲もうか』とか『何を身に着けようか』と言って思い煩うな。なぜなら、これらすべてのものは、異邦人たちが必死に求めるものである」とイエス様は私たちをいさめますが、つづいて「というのも、天のあなたたちの父は、あなた達にはこれらすべてが必要であることを知っておられるからである」と深い慰めの言葉を言っています。「困窮に対する悩みそのものを神とするな」ということです。

人は「自分で何とかしないと、生き残っていくことはできない」という不安を抱えると蝕まれ、誰かを蹴落としたり、誰かより優遇されることが、自分が生き延びる秘訣だと思ってしまうのかもしれない。今インターネット上で顕著なのが、他者を執拗に攻撃して、最悪の場合死に追い込むケースです。最近でいえば性的マイノリティの人たちや、難民に対するヘイトや暴力が思い出されます。だからこそ「大丈夫、神は私たちが必要なものをご存じで、それぞれに与えてくださる」という神への信頼感と安心感は、そのような攻撃性を私たちのうちから排除してくれるものであろうと考えます。

創世記にあるように、神は人間を互いに殺し合うものではなく、協力して神がお造りになった他の被造物たちを管理し、守るように造られました。戦争も、自然破壊も、そして人間関係の破綻も人間が自分たちで作りだしてしまったものです。神がお造りになったままに生きるということは私たち個人の幸せだけでなく、この世界全体の幸せ・平和を作っていくものです。（國分美生）